



国指定重要文化財 札幌市時計台

# 時計台の鐘

第 77 号

特定非営利活動法人

さっぽろ時計台の会

会長 木原直彦

札幌市中央区北1条西2丁目

時計台内

TEL 011-251-5944

## 会員増強に再チャレンジを

演武場IIミリタリー・ホール。

黒田清隆開拓長官の命令により、札幌農学校が防衛と開拓の指導を養生する目的で設立された事を物語っています。

明治十一年に完成した当初は、講堂、教室として使用されており、札幌の人々に時を知らせる時計塔が完成したのは、三年後の明治十四年であります。

「ボーズ・ビー・アンビシャス」で有名なクラーク博士はすでにアメリカに帰国していましたが、新渡戸稲造、内村鑑三、有島武郎らはここで学びました。

それから二二五年、周辺の街並みは変貌を遂げましたが、アメリカ中西部で考案されたハルーンフレーム（風船構造）の建物と、平成二十一年機械遺産に選ばれたハワード社製の大時計は健在で今も澄んだ鐘の音を打ち続け、市民の心を和ませています。

その時計台（札幌農学校演武場）の愛護と郷土札幌を愛護する心を育む活動を実践し、三十八年の歴史と伝統のあるさっぽろ時計台の会は、新しい年を迎え心新たに、先達の使命感と情熱・理念を今一度見つめ直し、その志を大切にしつつ木原直彦会長の下、会の発展に最大限の情熱を傾注してまいると所存であります。

さて、坂本千代美副会長が「長い年月には幾度かの曲折があったが、会の存続すらも危うい時も、何とか回避。現在あるのは名誉会長佐々木惣一郎さんのお陰と言っても過言ではない」と語られたのは記憶に新しい事です。

当時好況であった収益事業も現状は減収減益です。『栄枯盛衰』は世の常であります。かの自動車王フォードは「一緒に集まる事は始まりであり、一緒に続ける事は進歩であり、一緒に働く事は成功である」と言っております。

まさにその通りであり、私たちが収益事業依存体質から脱却し安定した全活動の継続には、以前取り組み実績を残せなかった会員増強が必要不可欠と私は考えます。

会員増強達成は容易な事ではありません。会員の一人ひとりが、可能な限り献身的、且つ精力的に目標達成に情熱を傾ける必要があります。

会を取り巻く環境は決して平坦ではありません。しかしこの様な諸問題に英知を出し合い、会員が一丸となり解決しつつ次なる四十周年に向けリ・スタートが出来ればと強く思った所であります。

私は会員の情熱を信じ、目標達成の感動を分かち合い、会が更なる高みへと拡大する事を期待してやみません。

副会長 谷 征輝

今年時計台創建一三五周年という区切りの年に当たりますので、目下、記念の事業を企画しているところです。

その節はお力添えをお願い致します。

第31回 (平成24年)

時計台まつり記念行事



創建記念式典・児童絵画展表彰式

今回は上田札幌市長には公用と重なり残念ながら出席いただけませんでした。札幌市教育委員会の北原教育長をはじめ多数のご来賓のご出席をいただき盛大に開催されました。ここ数年に及ぶ経済不況による売店販売事業の不振から、H24年度はやむなく永年継続実施してきました市民文芸作品コンクールを休止いたしました。そんなことから、表彰式も児童絵画展優秀者のみの表彰と若干淋しくなるのではと心配しておりましたが、児童の御両親をはじめ関係者の参加が例年になく多く、淋しさを感じさせない式典・表彰式とすることが出来ました。

演奏会等

各種ジャンルの音楽コンサート等を年五回企画した。「広報さっぽろ」、北海道新聞社社告、各区分センター等公共施設へのチラシ配布を通し市民への広報に努めた。

H24年度も応募者が定員を大幅に上回るコンサートが多く毎回大変な盛会であった。多数の抽選漏れの方が出ることもあり、主催者側としては若干複雑な思いがありました。また、H24年度新しく見られたこととして、開場前に入場待ちの長い行

列が出来たことが特筆されます。この行事がより多くの市民の方々に認知されてきたことの証、また、少しでも良い席で鑑賞したいとの気持ちの表れと受け止め、大変喜ばしいことと考えています。札幌市時計台をより市民に親しんでもらい、更には行事を通して札幌市への郷土愛、市民意識の向上を図るとする本行事の目的を充分に果たすことが出来たものと考えます。参加された方から次のような感想もいただきました。

毎月広報さっぽろが届くといつも一番先に時計台ホールの催し物を見てしまいます。内容が大変良く満足して心リフレッシュしております。今回近所のお友達を誘って拝聴いたしました。時計台ホールも初めて入ったようで、とても喜んでくれました。  
近々入会しようと思えます。有難うございました。  
(北区屯田 山崎様)



マリンバ・クラリネット・バイオリンの共演



尺八とギターのハーモニー

①六月二十七日(水)

カボウミ子古館賢治、工藤拓人のこぎり演奏とギター・ピアノ・バイオリン演奏

②七月二十七日(金)

佐藤洋一&近藤文字 クラシックギター演奏とバレエの共演

③八月二十八日(火)

杏野勢津子&札幌 Friends マリンバと他楽器のアンサンブル演奏

④九月二十六日(水)

琴アンサンブル「アルメリア」 琴で洋楽の演奏

・十月十日(水)～十六日(火) 児童絵画展優秀作品展

・十月十三日(土) 裏千家淡交会による呈茶

・十月十六日(火) 時計台創建一三四周年記念式典 児童絵画展優秀者表彰式

⑤十月十六日(火)

和楽泉 林成道 尺八とギターのハーモニー

# 木原会長 北海道功労賞の栄に輝く

八月二十三日、道は今年度の北海道功労賞を文芸評論家の木原直彦氏（八十二）に贈るとの発表がありました。

授賞理由は、氏が「北海道文学史」「北海道文学散歩」などの著作で北海道文学を道内外に広く発信したこと。特に札幌の文化と暮らしを語り継ぐ「さっぽろ文庫」の編集長として変化を続ける札幌の姿を克明に記録し、二十五年がかりの大事業をなしたとげた。また、一九九五年に開館した道立文学館の初代館長を務め、さらに、小樽市や函館市、旭川市など道内各地の文学館設立にも尽力した功績を讃えてとのことだ。

同賞は北海道の経済、社会、文化の発展に貢献



道知事からの表彰状授与



木原会長のご挨拶

した個人や団体に贈られる最高位の知事表彰です。会長ご自身も永年の労苦が報われて喜びもひとしおのことと拝察しますが、本会としても大変名誉なことと心よりお慶び申し上げます。なお、この北海道功労賞には過去

- ・昭和五十一年 高倉新一郎（初代本会会長）
  - ・昭和五十三年 田上 義也（初代本会理事）
  - ・昭和五十八年 九島勝太郎（二代会長）
  - ・平成四年 河野文一郎（三代会長）
  - ・平成四十八年 谷口 博（現監査）
  - ・平成五十二年 丹保 憲仁（現顧問）
- の諸氏が授賞されており、私どもの会の存在の大きさを示すものと、大いに誇れることであります。

同賞の贈呈式が十月十七日、北海道開拓記念館で行われ、高橋道知事から表彰状と共に「功績に深く敬意を表したい。豊かな経験と高い見識でわたしたちを導いてくださっている」との賛辞がおくられました。

奥様とご一緒に受けられた木原会長から「身に余る光栄。今では道内出身の作家が続々と出てきており、北海道を舞台にした文学作品も多い。こんなにうれしいことはない」との喜びの言葉がありました。

就任以来、岡本館長さんのご活躍ぶりには毎日接している私ども関係者から見ても本当に頭が下がる思いです。

# 岡本時計台館長奮闘記

終日、来館者へ展示物の案内、重要文化財としての時計台の建造物としての特徴、札幌農学校から始まる時計台の歴史の説明等々、腰を落着ける間もない程、忙しく立ち回っています。

また、常設でとかくマンネリになりがちな展示に少しでも変化をと毎年いろいろなアイデア・企画に取り組んでいます。H24年度も、七月、八月に「札幌農学校第一期卒業生及びクラーク博士など恩師」のパネル展や二期生で国際連盟事務次長などを務め、国際平和に尽くした「新渡戸稲造の生誕一五〇年記念」のパネル展を九月、十月と企画しています。

さらに、昨今の経済不況から落ち込んでいる来館者数を少しでも取り戻すべくと、旅行・観光関係業者を招いて時計台の魅力やPRする説明会を開催するなど意欲的・積極的に活動しているのです。



さらに、昨今の経済不況から落ち込んでいる来館者数を少しでも取り戻すべくと、旅行・観光関係業者を招いて時計台の魅力やPRする説明会を開催するなど意欲的・積極的に活動しているのです。

平成24年度 会の主な活動

- 3月7日 時計台まつり記念行事の出演団体決定・連絡
- 4月20日 時計台まつり実行委員の委嘱依頼
- 27日 「広報さっぽろ」6月号原稿依頼
- 28日 会計監査
- 5月5日 総会・理事会開催案内
- 9日 時計台まつり実行委員会
- 11日 北海道新聞社へ時計台まつり記念演奏会の広報依頼
- 16日 第1回理事会(総会議案審議)
- 21日 札幌市へ記念行事負担金交付申請  
道新、北電へ、その後順次申請  
札幌市、NHK等へ名義後援、協賛、特別賞出賞の依頼  
小学校長会等関係各所へ後援申請
- 26日 札幌青年会議所「ブルーアース」基金助成金申請
- 28日 「広報さっぽろ」7月号原稿依頼
- 30日 道新社告に記念行事年間計画掲載
- 6月2日 通常総会(活動・決算報告、活動計画・予算審議)
- 7日 会員への総会報告・会費納入案内
- 8日 演奏会プログラム印刷発注
- 10日 消防署へ催物開催届提出
- 15日 法人登記申請(法務局)
- 18日 児童絵画作品募集案内依頼
- 27日 第1回時計台まつり記念演奏会のこぎりと歌で奏でる音楽の夕べ カポウ各小学校へ児童絵画展作品募集のチラシ配布、掲示依頼
- 7月3日 労働保険申請
- 10日 道新社告 児童絵画作品募集記事掲載
- 27日 第2回時計台まつり記念演奏会クラシックギター演奏とバレエの共演
- 8月7日 松前孝子基金助成金申請
- 23日 木原会長北海道功労賞受賞決定
- 25日 児童絵画展作品受付開始
- 28日 第3回時計台まつり記念演奏会 杏野勢津子マリンバリサイタルwith 札幌フレンズ
- 9月7日 児童絵画作品審査依頼
- 12日 記念式典来賓出席依頼
- 13日 児童絵画展審査会
- 26日 第4回時計台まつり記念演奏会 琴アンサンブル「アルメリア」コンサート
- 10月10日 道新に児童絵画展入賞者発表
- 10~16日 児童絵画優秀作品展示
- 16日 時計台創建134周年記念式典・優秀者表彰式  
創建記念演奏会 林成道と尺八和楽泉心で奏でるギターのハーモニー
- 17日 木原会長「北海道功労賞」贈呈式
- 19日 児童絵画展受賞者への賞状・賞品の届出
- 22日 後援・協賛事業終了報告とお礼
- 30日 時計台まつり記念行事会計監査
- 11月9日 第2回時計台まつり実行委員会  
第2回理事会
- 26日 次年度時計台ホール使用申請
- 12月1日 時計台まつり記念行事出演者の公募  
「広報さっぽろ」に掲載
- 7日 同公募 道新社告に掲載
- 1月8日 H25年度時計台目的外使用許可申請
- 2月1日 会報77号発行予定
- 3月上旬 H25時計台まつり記念行事出演者決定予定

島木健作―時計台寸描⑤

木原直彦

〔北方人の血と運命〕を一身に背負って生きた作家であった。明治三十六年に北一条西十丁目で道庁下級役人の子として貧しく育ったが、開拓時代を描き札幌を愛しつづけた作家で小樽育ちの小林多喜二や伊藤整と同時代である。札幌北一条郵便局(北一西十)の前に生誕地碑が建つ。

十五歳のときの大正六年に北海道拓殖銀行の給仕になり、夜学に通う傍ら近くの時計台のなかにあった北海道教育会附属図書館に足を運んだ。すでに文学を志していたのである。

まだ山鼻地区を含む円山町が合併していない頃の、人口もわずか十万人に満たないときだ。大正十年になって篤志家の奨学金を得て私立北海中学(現北海高校)に編入学したが、このときも札幌区教育会附属図書館になっていた時

計台に親しんだ。  
「屋上に古風な大時計がおかれた古ぼけた木造建築の町の図書館に上げしげと通うようになった頃からそれは(文学への道)は急速に自分の内に展けつつあった。この一年間ばかり土曜日曜はもちろん、その他の日にもひまあることに自分はせっせと図書館に通いつめていた」

自伝的小説「礎」のなかの一節である。時計台の歩みの中で「図書館」の存在は欠くことのできない重要事だが、島木健作もまたその一員だったのである。

付け足しを、一つ。故郷に帰って来た彼は友人と円山に登る。「小熊が背中をまるくしているようでもあるこの可愛らしい山はこの町生まれのものにとってはなつかしいものだった」  
山頂から時計台が見えたかどうか。

事務局だより

◆このところ毎年のように、事務局だよりには厳しい会の運営状況を書かざるを得ず、残念ながら今年も例外ではない。第三十一回時計台まつり記念行事では永年(十五回)続けてきた市民文芸作品コンクールの休止のやむなきにいたり、次回の開催も厳しい状況にある。

◆新渡戸稲造のパネル展に合わせて彼の著書「武士道」を十月から売店に置いた。三ヶ月で二十二冊が出るというまずまずの売れ行きである。「紺屋の白袴」では恥ずかしいので私も購入し読むこととした。

「何世代か後に、武士道の習慣が葬り去られ、その名が忘れ去られるときが来るとしても、その香りは遠く離れた、見えない丘から漂ってくることだろう」と百数十年前に彼が予言した日本人の心(魂)は、あの悲惨な修羅の場で示された被災地の人々の姿に見事に再現され、証明された。